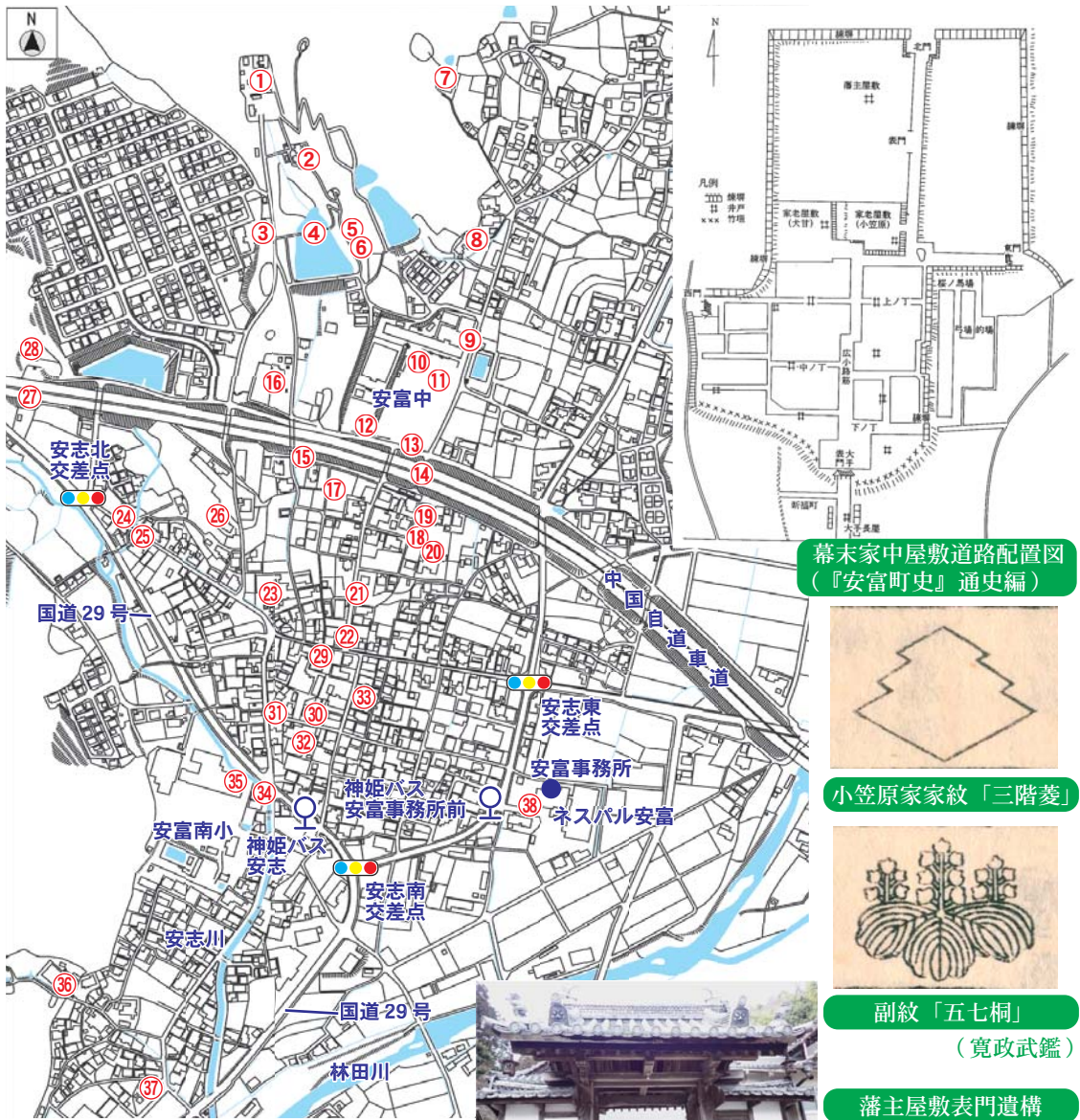




## 『安志陣屋』をたずねて



小笠原家嫡流の中津藩主小笠原長邕(ながさと)が享保元年(1716)六歳で死没し無嗣断絶、祖先(小笠原秀政・忠脩が大坂夏の陣で戦死)の功勞により翌年長邕の弟で3歳の長興に播磨国内四十六ヶ村一万石を与えて安志藩を立藩させた。しかし藩領は幕府領の山間の村を中心に宍粟郡内十八ヶ村、佐用郡内十ヶ村、赤穂郡内十八ヶ村(現行政区域では姫路市・宍粟市・佐用町・上月町・赤穂市・相生市にまたがる)で極めて散在的な領地であり無論城郭もなかった。初代藩主長興は病弱で一度も入部することなく享保15年(1730)病没し幕府は家名存続のため一族の小倉藩主小笠原忠基次子の長遠(ながみち)に小笠原信濃守家の家督を相続させ小倉藩の職制に郡代支配下の「安志用掛」を置き安志藩領支配の支援態勢をとった。二代藩主長遠は安志の弥ノ谷山の尾根から南に延びる舌状丘陵に藩主屋敷(現安富中学校敷地)、その南側に家中屋敷を享保20年(1735)に建設し初入部を果たした。安志藩二代長遠の次子小倉藩五代忠苗(ただみつ)、三代長為(ながため)の次子小倉藩六代忠国、六代棟幹(むねよし)は小倉藩九代忠幹(ただもと)となり安志藩主を長子貞孚(さだちか)に譲るなど安志・小倉両藩は密接不可分の関係にあった。

### ① 加茂神社

平安時代に成立した賀茂別雷神社(上賀茂社)領安志庄の総鎮守。教蓮寺西側に安志の町からの参道があり文政5年(1822)常夜燈一对と昭和6年加茂神社標柱(千家尊有大社教管長筆)がある。境内に安志稲荷神社、小笠原祖宗の五霊を祀る小笠原神社(藩主屋敷東側の五霊社を遷座)と安志家中奉納の延享3年(1746)石燈籠、安志藩主建立という神明社や金刀比羅神社、弁天社等のほかあじさい園がある。昭和52年より一反分の稲穂で翌年の十二支を2基制作し12月1日に奉納する干支引きが行われる。



加茂神社社殿

### ② 安志稲荷神社

加茂神社摂社、天明2年(1782)石燈籠一对

### ③ 加茂神社馬場跡

5月15日葵祭がありかつて競馬などが行われていたという



安志稲荷神社社殿



加茂神社社参道

### ④ 弁天社

昭和44年新池改修の際に現在地に建立

### ⑤ 旧安志藩主小笠原子爵之碑

陣屋を西北に臨む地(膝下に砲術的場跡)に明治44年建立

### ⑥ 砲術的場跡

「安志藩廃藩当時地図」に藩主屋敷東側に大砲置場があり高良池と新池の間の谷で砲術訓練をしていたとみられる。



新池と弁天社殿



小笠原子爵碑

### ⑦ 開善寺跡

山号曇秀山、臨濟宗妙心寺派。安志藩立藩後、小笠原家氏寺として建立されたが廃寺となり荒廃した本堂・土塀が遺る(危険なので近づかないよう注意)。墓地に安志藩藩校教頭であった稲垣子華墓(市指定)がある。室町幕府信濃守護小笠原貞宗が大鑑禅師(清拙正澄)を開山として信濃国内に建立。安志・小倉・唐津・越前勝山藩小笠原家諸家は封地に開善寺を建立している。指定文化財は「文化財をたずねて46」参照。



開善寺(廃寺)本堂

### ⑧ 今念寺

安富町域で唯一の天台宗寺院、弘安3年(1280)妙恵を開基として建立(明治12年宍粟郡寺院明細帳)、県指定・石造五重石塔は相輪を欠失するが弘安3年(1280)2月の刻銘がある。薬師堂に雨乞絵馬が遺る。



今念寺



陣屋北門跡(横断歩道付近)

### ⑨ 陣屋北門跡

藩主屋敷東北隅に位置、門内に番所。

### ⑩ 藩主屋敷跡

安志藩小笠原家二代長遠が享保15年(1730)弥ノ谷山の尾根南端、現安富中学校敷地に藩主屋敷、その南に家中屋敷の造成を始め享保20年(1735)安志陣屋完成、同年初入部を果たした。安富中学校校庭東側に安志陣屋跡碑。



藩主屋敷表門遺構



安志陣屋跡碑

### ⑪ 藩主屋敷表門跡

廃藩後に移設され現真光寺⑬の山門として遺る。

### ⑫ 家老犬甘家跡

藩主屋敷南の西側、安富中学校体育館西側から犬甘家跡西側にかけて陣屋土塁が遺り、「安志陣屋絵図」に犬甘家西北の鳥居と堂を描くが鳥居は消滅。

⑬ 家老小笠原家跡

藩主屋敷南の東側、現安富中学校校庭の南側にあたる。



陣屋西側土塁



土塁上の堂跡カ

⑭ 陣屋東門(志水門)跡

家老小笠原家跡東南隅から東、弓術的場の北東に位置中国自動車道建設で消滅。



陣屋西門跡

⑮ 陣屋西門跡

中国自動車道南側の道が陣屋上ノ丁であり西端に西門があった。西門を出て北に進むと光久寺、南に進むと教蓮寺東側の道筋で山崎道・北条道に至る

⑯ 光久寺

山号松寿山、真言宗醍醐寺派。小笠原家遠祖加々美遠光(家祖小笠原長清の父)が高倉院より下賜された「木造不動明王像」(平安後期作 国重文)を祀る寺院として建立されたという。安志藩立藩後、小笠原家祈願寺として建立。本堂(護摩堂)は享和2年(1802)建立の唐様建築だったが焼失。寛永20年(1643)礼盤台や「廬山寺版大般若経」六百巻など中津藩時代のものも遺る。指定文化財は「文化財をたずねて46」参照。年一度の護摩焚・火渡の際に「不動明王立像」を公開。



ありし日の光久寺本堂



光久寺大護摩火渡

⑰ 家中屋敷跡

中国自動車道の南側の上ノ丁筋より南側は江戸時代の道幅のまま家中屋敷の区画が遺る。

⑱ 鳥見所跡

桜之馬場の西側南北の道の窪みが鳥見所跡である。



家中屋敷跡



鳥見所跡

⑲ 桜之馬場跡

家老屋敷南側の筋を北辺とし家中屋敷東側に下ノ丁筋まで桜之馬場、北西隅に桜之場は跡碑。

⑳ 弓術的場跡

桜之馬場の東側、一段低い場所にあった。

㉑ 陣屋大手門跡

弥ノ谷山の尾根舌状南端部の断層上に大手門を構え安志町を臨んでいた。大手門は現実法寺の齋神社神門という。



陣屋大手門遺構(齋神社)



桜之馬場跡・弓術的場跡

㉒ 大手長屋跡

大手門から山崎道・北条道までの坂道両側に大手長屋を置いていた。

㉓ 教蓮寺

山号照明山、浄土真宗本願寺派。天文9年(1540)に行従(行順)を開基として建立、寛永10年(1633)木仏寺号。五輪塔残欠、文政2年(1819)銘の鬼瓦が遺る。



教蓮寺本堂



陣屋大手門跡

㉔ 立場跡

街道筋の休憩、人馬交代等を行う場所、安志藩が設置した立場とみられる。



山崎道の築山・立場跡附近

㉕ 築山跡

安志町の山崎道西端の入口に築山を設営していた。



法性寺



小笠原長達石棺

㉖ 法性寺

山号大雄山、臨済宗大徳寺派。大坂夏の陣で戦死した小笠原忠脩が信州松本に創建した。安志藩立藩後、小笠原家菩提寺として建立。「明治12年宍粟郡寺院明細帳」は享保2年(1717)安志藩初代長興を開基・創立とする。開善寺・光久寺・法性寺を小笠原三ヶ寺という。指定文化財は「文化財をたずねて46」参照。

㉗ 藩主墓所跡

法性寺境内にあり中国自動車道建設のため自動車道北側に移設された。

㉘ 二代藩主小笠原長達石棺・墓塔、五代藩主小笠原長武墓塔

㉙ 安志町町会所跡

安志町の行政は町会所で行われていた。



小笠原長達・長武墓塔

㉚ 大庄屋井上家住宅

安志藩領の佐用郡蔵垣内組大庄屋の井上家6代進右衛門は文化5年(1808)安志組郡方勘定役となり安志組大庄屋家となった。



高札場跡



安志組大庄屋井上家住宅

㉛ 高札場(制札場)跡

町会所・大庄屋井上家住宅のある区画南西隅に高札場が置かれていた。

㉜ 円徳寺

山号福勝山、浄土真宗本願寺派。天文5年(1536)観成を開基として建立、元禄4年(1691)木仏寺号(明治12年宍粟郡寺院明細帳)。境内に弘化3年(1846)銘の鬼瓦。



円徳寺



天満宮

㉝ 天満宮

安志町鎮守。文化8年(1811)「安志組神社帳」に安志町鎮守として天満宮、加茂大明神(①賀茂神社)境内の神明宮(神明社)のほか龍宮社、道祖神、天満宮荒神相殿の5社が見える。

㉞ 築山跡

安志町の姫路道南端の入口に築山を設営していた。藩主参勤路は林田川沿いに姫路道を南下したとみられる。



姫路道の築山跡附近

㉟ 牢屋(牢舎)跡

安志町の姫路道南端の入口から西側に牢舎(牢屋)が設置されていた。

㊱ 真光寺

山号安養山、浄土真宗本願寺派。天正9年(1581)空心を開基として建立、宝暦4年(1754)木仏寺号。本堂は弘化3年(1846)建築、山門は安志藩主屋敷表門を移設したという。



真光寺本堂



加茂神社社殿

㊲ 加茂神社

中世では野村と呼ばれた長野村の氏宮、文明11年(1479)法隆寺食堂鰯口銘の「播州宍粟郡安志庄之内野村貴布禰社」が長野の加茂神社とみられる。明和6年(1769)鳥居、寛政5年(1793)石燈籠一対。

㊳ 復元安師村道路元標